

医療従事者と社会の  
善き志を繋ぐ  
月刊院内情報誌

年間  
特集

絵で見て分かる  
生活習慣病

代謝編  
6

# これっですでに 糖尿病？

年間  
企画

がん幹細胞を追いかけて……2  
その目印には  
意味がある

特別  
企画

記事が分かる生物の基礎  
遺伝子発現  
とは何か

好評  
連載中

- 食べ物と添加物と健康
- H I M A C 20年 医療の放射線が分かる
- 睡眠のリテラシー
- 梅村聡が斬る
- 薬局の上手な使い方
- コンビニ受診大歓迎
- ハート・リング通信



# 梅村聡 が斬る

第9回

## 理研は、「検証作業」を 小保方さんと共に行うべき

理化学研究所は4月初め、STAP細胞の存在を検証するチームのメンバーに、論文の筆頭著者の小保方晴子さんを加えないと発表しました。しかし、最も内実に詳しい、そして情報をたくさん持っている小保方さんを検証に加えないで、真実が明らかになるとは思えません。理研が行うべきは、小保方さんを加えての検証と今回の問題の原因究明、そして似た問題を今後起こさないための再発防止です。彼女一人をバッシングしたり、逆に擁護していても、何の解決にもなりません。



うめむら・さとし ●内科  
医。前参院議員、元厚生  
労働大臣政務官。1975年、  
大阪府堺市生まれ。2001  
年、大阪大学医学部卒業。

医療にも基礎研究が非常に大事です。私は、2008年に超党派の議員立法で成立した、公的研究機関の研究開発に力を入れる「研究開発力強化法」制定に携わりました。

今回のように小保方さんという研究者個人をバッシングしたり、逆に擁護したりする報道が続くと、国民の研究者への信頼が損なわれ、理研だけでなく他の研究機関や大学などにも悪影響を与えようと思

ます皆さんにお伝えしたいことは、今回の件について、研究者個人としては小保方さんが完全に間違っているということと、これはSTAP細胞が実在するか否かとは全く関係ありません。よくテレビでコメンテーターが「私たちはSTAP細胞が本当に存在するのかわかりたいんです。そこが重要ですよ」と「専門家風」にしゃべっていますが、そんなことは全く今回の騒動とは関係がないので

す。事実かどうかではなく、論文発表に関するルール違反をした時点で研究者個人はアウトです。200回成功しよ

一流選手だ」とはなりません。そのうち2軍行きです。「なんでこんな凄い選手を2軍に行かせるんだ。おかしいじゃないか」と言っても誰も同情しないでしょう。

ただし、そんな選手が1軍公式戦の打席に何度も立っていること自体、その野球チーム（組織）はおかしいのです。「打撃練習はするが走塁練習はしないのか?」「その選手がどうやってドラフトで選ばれたのか?」「紅白戦やオープン戦では同じことをしなかったのか?」「なぜスタメンに起用したのか?」など、色々な疑問が出てくるはずで

す。野球チームなら当たり前の話でも、これが日本を代表する「理化学研究所」となる

と途端に惑わされてしまうのです。それくらい「個人」としても「組織」としても情けない話です。

ただでさえ日本は海外に比べて論文数が少なく、基礎研究力の低下が懸念されています。

す。これ以上、基礎研究に従事する人を減らしてはなりません。話を本質に引き戻して、日本の損失を防ぎたいと思います。

### 「個人だけの責任」はあり得ない

研究の進め方は、研究室にもよりますが、週に1回など定期的に、得られたばかりの生データを持ち寄って、研究室のメンバーで検討します。そこで、データのばらつきを見ながら実験手法そのものに問題があったのか、条件が悪かったのか、など議論し、論文に投稿するのに適切なデータであるかどうかも検討します。あらゆる方向から生データを検証し、論文を作っていくのです。

その過程が必ずあるはずで、一般的な研究室を想定するのなら「一人の責任」という説明には無理があります。今回は「Nature」という世界で最も権威ある雑誌に投稿し

たのですから、なおさらです。小保方さんには、上司もいますし、ユニットリーダーですから部下もいます。彼女以外の目が必要だったはずで、理研はこの問題について、小保方さんが論文を不正に捏造、改ざんしたと発表しました。彼女一人に責任をかぶせようとしていると国民には映ったと思います。しかし、そもそもなぜ今回の問題が起こったのか、研究手法、組織、チーム、個々の関わり方など、様々な面からの検証がとて

ません。似たような問題がまたどこかで起きるだけです。

### 実在するかの検証は本人と共に行うべき

そもそも理研には多額の税金が投入されています。研究を社会に役立ててほしいという納税者の立場からすれば、小保方さん個人をバッシングしても得るものはなく、今後の医療に大きな革命をもたらすであろうSTAP細胞が存在するのかわかりかの方に、より興味があると思います。ですから、原因究明と再発防止を行うと同時に、STAP細胞を再現できるかの検証も理研は自らが行う必要があります。きちんとプロセスを踏んだ検証を行い、結果を出すこと

日本では、問題が起こった時に、腹切り文化とでも言え

きちんとプロセスを踏んだ検証を行い、結果を出すことによつてしか、理研は信頼を取り戻せないと思

の検証チームに小保方さんを加えないと発表しました。小保方さん個人を糾弾した流れを汲んでの判断かもしれませんが、最も内実に詳しいはずの彼女を外して検証できるのでしょうか。小保方さん本人を外したチームで再現実験を行ったとしても、仮に再現できなかった場合、「いや、そのやり方ではなかった」と反論を受ければ、どうしようもありません。

「第三者」とは公平・公正な印象がありますが、逆に言えば「第三者」は現場から最も遠いから「第三者」なのです。よつて最も効率よくSTAP細胞の真実に近づける方法は小保方さんを検証チームに入れ、彼女と共に検証していくことだと思います。逆に彼女を外してしまえば、真実は永遠に闇の中です。

読者の皆さんも、マスコミ報道に流されず、何が本当は大事なのかじっくり見極めていただきたいと思